

近年の横手市の発掘調査と下福田尻遺跡の調査成果

藤原 正大（横手市教育委員会）

I. 近年の横手市の発掘調査

平成 17 年（2005）の市町村合併後、横手市内では 82 遺跡の発掘調査を行い、52 冊の発掘調査報告書を刊行しています。特にここ数年、横手市では農業経営基盤の強化と安定した経営体の育成のため、水田の区画拡大や用水路の整備を行う農地集積加速化事業（圃場整備事業）が進められており、それらの工事によって遺跡が消滅する部分については横手市教育委員会が発掘調査を実施しています。また、その成果を発掘調査報告書として刊行することで、記録保存という形で遺跡を後世へ残しています。以下では、ここ数年発掘調査を実施し、注目される成果のあった遺跡について時代毎に報告していきます（第 1 図・紙上報告 1）。

1. 縄文時代

縄文時代中期初頭～後葉の集落遺跡である堀ノ内遺跡（大屋寺内）^{ほりのうちいせき}は、JR 横手駅から南へ約 4km に位置し、奥羽山脈から流れ出た沢の作り出す扇状地扇端に立地します。平成 30 年（2018）に行われた発掘調査では、建物跡が 29 棟以上と、建物跡に関係すると思われる石囲炉・土器埋設炉・柱穴・土坑が 500 基以上確認されました。また縄文時代中期初頭（大木 7a 式）の SI03 堅穴建物跡と SX04 土坑群からは、鼓形大型石棒が出土しました。この資料はこれまで、出土例が頭部のみであったため「岩偶」と報告されていたものですが、この資料が出土したことで「石棒」ということが明らかになり、注目を集めています。なお、この資料は現在山形県うきたむの丘考古資料館に貸し出しており、第 28 回企画展「水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形」展で 12 月 6 日まで展示されています。

2. 古墳時代

古墳時代中期の集落遺跡である一本杉遺跡（平鹿町下吉田）^{いっぽんすぎいせき}は、JR 横手駅から西へ約 8km に位置し、沖積地内の南北に延びる微高地上に立地します。平成 29 年（2017）の発掘調査では、長辺が 10m を超えるものをはじめとする 5 棟の堅穴建物跡を確認し、秋田県では類

例のほとんどない古墳時代中期の集落遺跡であることが明らかになりました。

竪穴建物跡は長軸のやや長い方形で外周に細い溝が巡らされており、内部には中央部に炉が設けられているものもありました。これらの建物の構造は北陸地方との関連が示されており（石川県四柳ミッコ遺跡などに類例）、建物内から出土した土師器（甕・高杯など）もその形や作り方などから北陸地方と関連があるものと考えられています。また、建物跡から出土した須恵器は、古墳時代最大の須恵器生産地である大阪府堺市陶邑古窯跡群^{すえむら こようせきぐん}の製品（5世紀後半：TK208型式）であることが確認されています。

3. 奈良時代

『続日本紀』によれば、横手盆地には律令国家が、天平宝字3年（759）に雄勝城を造営したとされますが、その場所は未だ未発見です。しかし近年、奈良時代の遺跡が密集する地区であり、雄物川や皆瀬川によって形成された島状台地に位置する雄物川町造山地区が雄勝城の比定地として注目され、秋田県教育庁払田柵跡調査事務所や雄勝城・駅家研究会によって発掘調査が行われています。

昨年度、秋田県教育庁払田柵跡調査事務所によって行われた猫袋遺跡（まみぶくろいせき）の発掘調査では、東西方向へ延びる溝跡2条が確認されました。これと同様の溝が平成18年（2006）に横手市教育委員会が行った東槻遺跡^{とうつきいせき}の立会調査でも確認されており、並行する溝が延びていることが判明しています（秋田県教育庁払田柵跡調査事務所2020）。この溝2条の幅は約10mを計ることから、役所（官衙^{かんが}）に続く大路（道路）の可能性があり、今年度も周辺が発掘調査される予定です。

4. 平安時代

平安時代の集落遺跡である柴崎遺跡^{しばさきいせき}（赤坂）は、JR横手駅から西へ約2kmに位置し、沖積地内の微高地上に立地します。令和元年（2019）に行われた発掘調査では、9世紀代の掘立柱建物跡20棟以上、井戸8基、土坑30基、溝30条を確認しました。

調査区西側で検出された掘立柱建物群は重複して建て替えられていて、2間×2間（5.4m×5.4m）や3間×3間（5.85m×5.85m）など方形のプランで、倉庫群の可能性がありそうです。また、調査区北東で検出した井戸からは瓢箪^{ひょうたん}を利用して作った柄杓^{ひしやく}や、土師器の盤、灯明皿、須恵器蓋を転用した硯など一般の集落では見られない遺物が棄てられていました。柴崎遺跡の発掘調査報告書は現在編集中で、遺跡の性格についても検討中ですが、在地有力者の居宅^{きょたく}または律令国家との関連がある施設の可能性があります。

平安時代の生産遺跡である館尻遺跡^{たてじりいせき}（平鹿町上吉田）は、JR横手駅から西へ約7kmに位置し、沖積地内の南北に延びる微高地上に立地します。平成30年に行われた発掘調査では、9世紀後半から10世紀初頭にかけて土器の生産を行った土器焼成遺構群を確認しました。9

世紀前半では中山丘陵を中心に土器生産が行われていたことが分かっていますが、今回の調査により 9 世紀後半には低地（沖積地）の集落遺跡まで土器の生産が広がっていることが明らかになりました。また、古代の井戸も確認されており、その中からは観音開きの扉を転用した井戸側材が出土したため、格式の高い建物の存在が推測できます。

5. 中世

前述の館尻遺跡では、中世のものと考えられる 3,000 をこえるおびただしい数の柱穴から 167 棟の掘立柱建物跡が復元されました。これらは 12 世紀後半の 1 期から 16 世紀後半の 9 期まで、9 期の変遷が考えられ、規模の大きい中心となるような建物が複数期変遷しています。また、秋田県で初めて確認された屋敷墓と思われる木棺墓や土葬墓・火葬墓・火葬遺構、層塔や五輪塔の一部などが確認されました。また、須恵器系陶器や国産陶磁器、中国産陶磁器、刀子、北宋銭などの遺物も出土しました。これらの遺構・遺物は、鎌倉時代以降平鹿郡に本拠を置いた平賀氏との関連が想定できます。

この他、後三年合戦関連遺跡の発掘調査を継続しており、今年度は金沢柵の「館」部分の特定のため内容確認調査を実施中です。

II. 下福田尻遺跡の調査成果

1. 調査要項

遺跡名：下福田尻遺跡（しもふくだじりいせき）

所在地：秋田県横手市下吉田字下福田尻

調査原因：下福田地区農地集積加速化基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

調査面積：2,424 m² 調査機関：2020 年 5 月 23 日～8 月 7 日

調査協力：秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課・雄物川筋土地改良区
株式会社伊藤組造園

調査指導：秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室・秋田県埋蔵文化財センター

調査主体：横手市教育委員会教育総務部文化財保護課

2. 調査の概要

しもふくだじりいせき
下福田尻遺跡は、JR 横手駅から西へ約 7km、横手市役所平鹿地域局から北に約 6km の位置にあり、北流する大戸川が作り出した北西から南東へ延びる微高地上に立地します。もと

もと周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は確認されていませんでしたが、下福田地区農地集積加速化基盤整備事業に伴い、昨年度遺跡の有無を確認する分布調査を実施した結果、奈良・平安時代の遺物・遺構が確認され、新発見の遺跡として周知されました。遺跡周辺は過去に耕地整理が行われ、昭和 20 年代に米軍によって撮影された空中写真と比較しても地形が変化していることがわかり、削平を受けていると考えられます。実際に、今回の調査区では遺物を含む層（遺物包含層：黒土）がほとんど残存せず、確認された竪穴建物跡は建物埋土や床面が僅かに残るのみでした。

結果として、圃場整備事業により遺跡の消滅する 2,424 m²について発掘調査を行い、奈良時代及び中世の集落遺跡であることが明らかになりました。

3. 周辺の遺跡

当該地の周辺には、付近を流れる大戸川やその支流が形成した微高地上に縄文時代や古代の遺跡が多く立地しており、奈良時代から集落遺跡・生産遺跡が分布します（第 2 図）。奈良時代は平鹿郡の郡域に属しており、下福田尻遺跡と同時代の奈良時代に属する遺跡は宮東遺跡、オホン清水 A 遺跡などがあります。また、当該地から東へ 2km の位置には、奈良時代中頃（8 世紀第 3 四半期）から須恵器の生産を開始する竹原窯跡が立地しています。『続日本紀』天平宝字 3 年（759）9 月には雄勝・平鹿郡の設置した記載があることから、文献史料の通り奈良時代中頃から当該地周辺の地域開発が開始したと考えられます。

4. 調査の成果

（1）検出遺構と遺物

遺構：竪穴建物跡 5 軒、掘立柱建物跡（柱穴 900 基以上）、木棺墓 1 基、土坑 21 基、溝 9 条

遺物：縄文土器、須恵器、土師器、石器ほか

（2）調査成果（第 3 図）

①竪穴建物跡

今回の調査では、奈良時代（8 世紀中頃～後半）に属する竪穴建物跡（SI01、SI02A, B、SI03A, B）を確認しました（第 4 図）。

（i）SI01 竪穴建物跡

SI01 は調査区中央部に位置します。確認時には建物の埋土はほとんどなく、削平が床面近くまで達していました。また、一部を新しい水路によって破壊されており、遺構の残存状態は良くありませんでした。長辺 4.1m、短辺 3.5m のやや東西に長い長方形の竪穴建物で

す。建物内の柱穴も明確に確認できるものは少なく、構造等は今後検討していく必要がありますが、建物に伴う柱穴のひとつと考えられる北東隅の柱穴からは8世紀後半のものと考えられる内黒土師器杯と須恵器杯が組み合った状態で出土したため、8世紀後半前後には存在したものと考えられます。煮炊きに必要のカマドは作りつけられておらず、建物内部からは焼土を多く含む土坑を確認しました。

(ii) SI02A, B 竪穴建物跡

SI02A, B は2軒の建物跡が重なっており、調査区南側に位置します。床面近くまで削平を受けているため、新旧関係を今後精査する必要がありますが、長辺 4.5m、短辺 3.5m を計り、建物壁際に 11 基の柱穴が確認されました。そのうちのひとつからは、柱を据えるための掘方から 8 世紀中頃（8 世紀第 3～4 四半期）と考えられる須恵器の高台付杯が出土しているため、建物の年代も同じ頃と考えられます。建物内部には炭化材が広がっており、人為的か意図的かは別として焼失したものと思われます。また、ここでもカマドはなく、炭化材の下からは焼土の広がりが確認されました。

(iii) SI03A, B 竪穴建物跡

SI03A, B は調査区西端に位置します。SI03A は、長辺約 4.2m、短辺約 4.0m の正方形の竪穴建物跡で、建物内部に 4 本の支柱穴をもちます。この上に長辺 6.0m、短辺 5.4m の SI03B が重なって確認され、建て替えが行われたものと考えられます。後から作られた SI03B は SI03A と同様に 4 本の支柱穴をもちます。SI03B では、建物を建てる際に掘られた壁溝の掘方から 8 世紀中頃（8 世紀第 3～4 四半期）と考えられる須恵器の杯が出土したため、SI02A, B と同様に、建物の年代も同じ頃と考えられます。また、この建物内部でも炭化材が確認されました。この建物跡も同じくカマドはなく、焼土の広がりを 3 か所で確認しています。

②溝跡

調査区内では、近世から現代までの新しい時代のものを除いて 6 条の溝跡を検出しました。これらの溝跡は北西から南東へ延びる微高地を地形に合わせて区画していたものと考えられます。溝跡の底面からは建物跡と同様に奈良時代後半の年代に位置づけられる須恵器が出土しているため、微高地上に展開する集落域を区画するために掘削されたものと思われます。

このほか、土坑 21 基からは奈良時代の遺物（須恵器・土師器）が出土し、現在整理作業を進めています。

また、今回の発掘調査では、古代～近世の 900 をこえる柱穴を確認しました。これらの柱穴から掘立柱建物跡を復元する作業に関しては、建物構造や柱間を考慮し検討を進めています。このほかに、館尻遺跡と同様に中世の木棺墓と思われる遺構も確認し、これも同様に構造等を検討中です。

(4) 出土遺物について

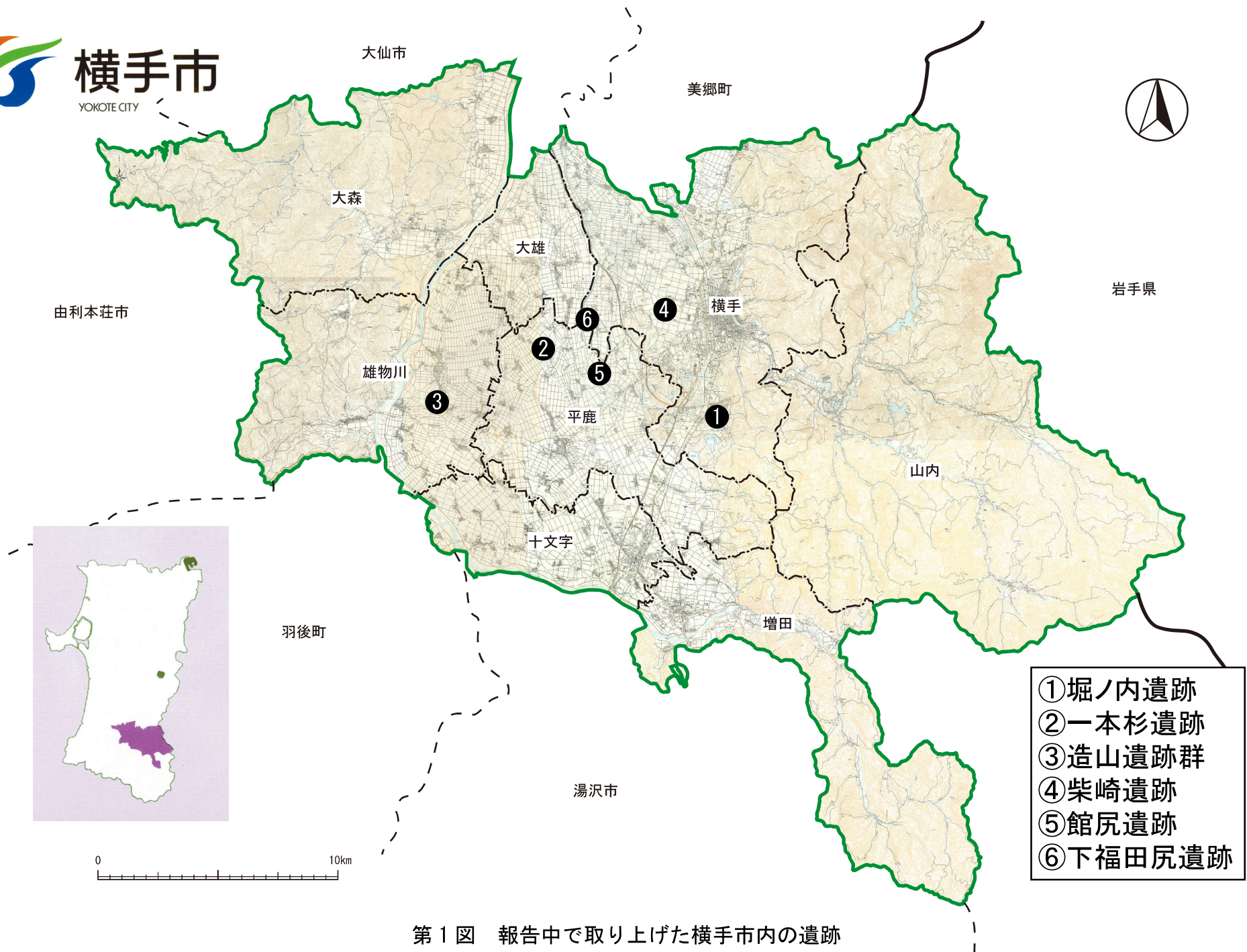
奈良時代の竪穴建物跡からは、奈良時代の須恵器・土師器片を中心に多量の遺物が出土しています。SI02 竪穴建物跡からは、煮炊具の土師器甕（長胴甕・球胴甕）のほか、食膳具として土師器鉢、須恵器杯、そのほか土師器壺、蓋などある程度のまとまりのある土器群が出土しました。土師器類と共伴する須恵器は竹原窯跡の出土遺物に類似の例があり、その年代から土師器についても 8 世紀中頃～後半の年代観に当てはまると考えています。SI03 竪穴建物跡については完形資料が少ないものの、土師器甕、鉢のほか、SI02 同様に竹原窯跡製品と考えられる須恵器杯、高台付杯が出土し、近い時期の土器群であると考えられます。

Ⅲ.まとめ

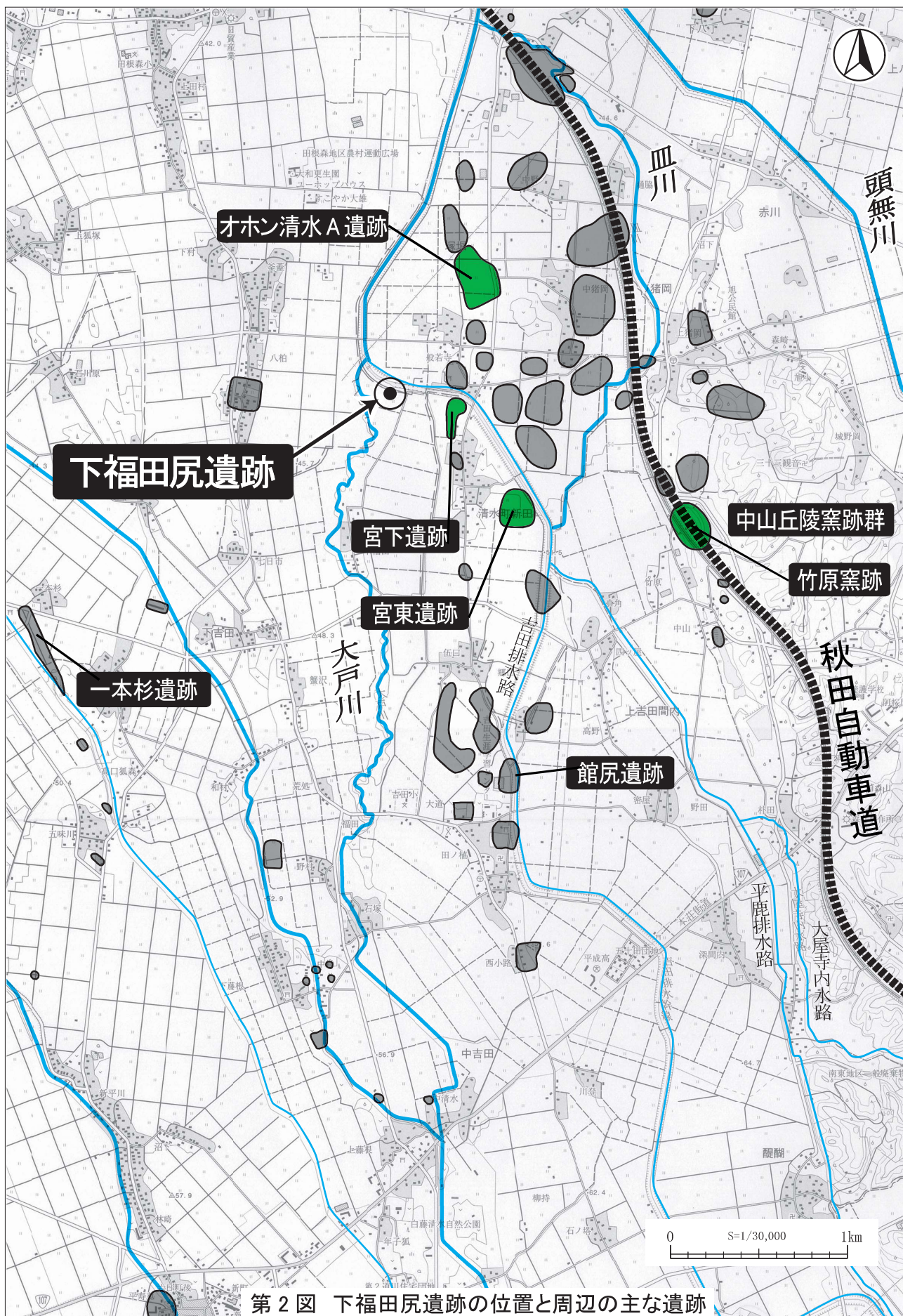
上述の通り、下福田尻遺跡は奈良時代及び中世の集落遺跡であり、現在までの検討の結果、溝跡で区画された微高地上に竪穴建物跡が複数棟建てられていることを確認しました。これらの建物跡は煮炊きを行うのに必要なカマドを設けず、周囲に壁溝を巡らす点で、周辺で確認されている竪穴建物跡と異なる構造をしており、作業場（工房）などの可能性も考慮しつつ整理を進めています。遺跡の主な年代は 8 世紀後半とみられ、周辺に立地する集落遺跡や、中山丘陵の竹原窯跡で須恵器生産が開始する年代と同じ時期のため、雄勝城の造営や、平鹿郡の建郡とともに開始した遺跡周辺の地域開発を検討するうえで重要な遺跡であると考えられます。

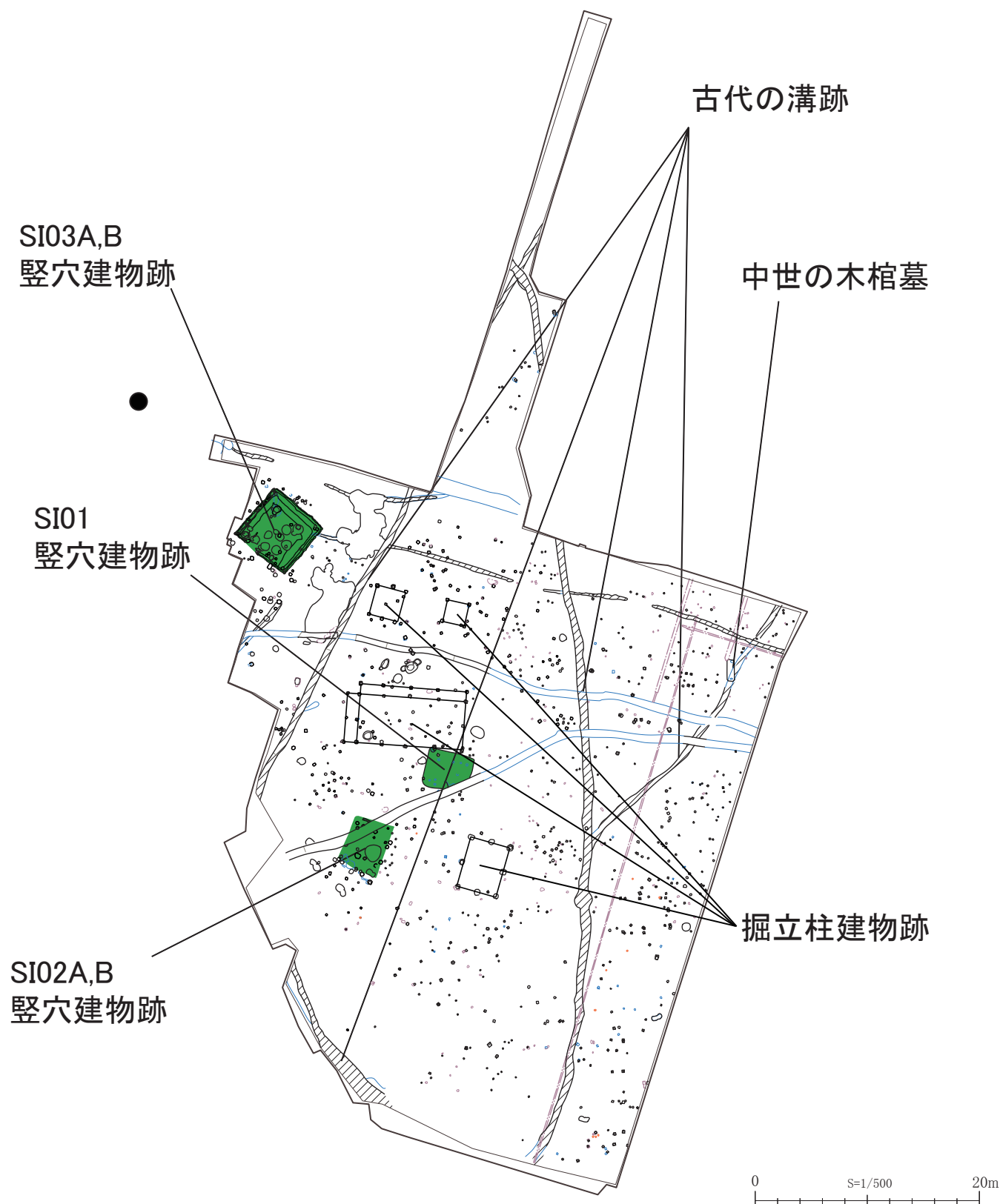
参考文献

秋田県教育委員会・秋田県教育庁弘田柵跡調査事務所 2020『弘田柵跡―第 153 次調査・関連遺跡の調査概要―』



第1図 報告中で取り上げた横手市内の遺跡

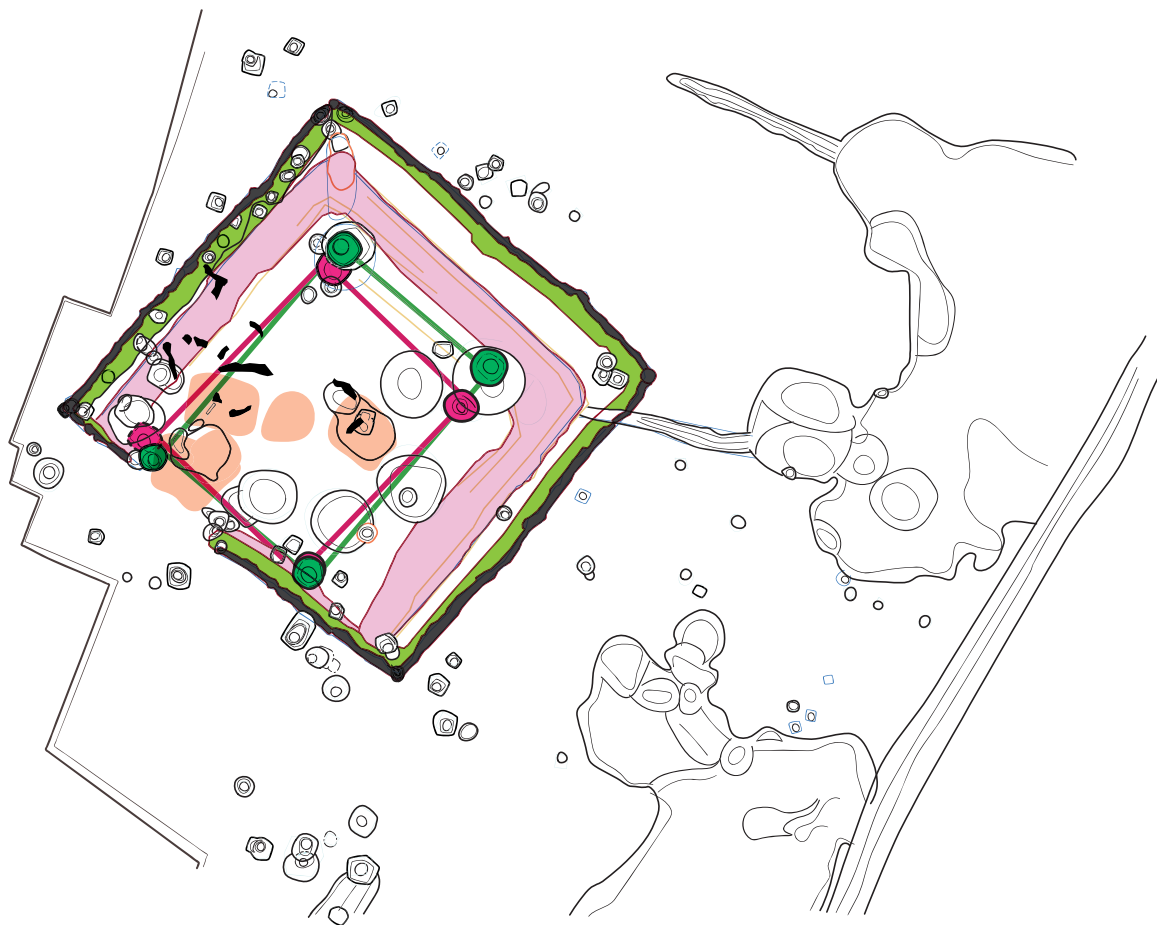




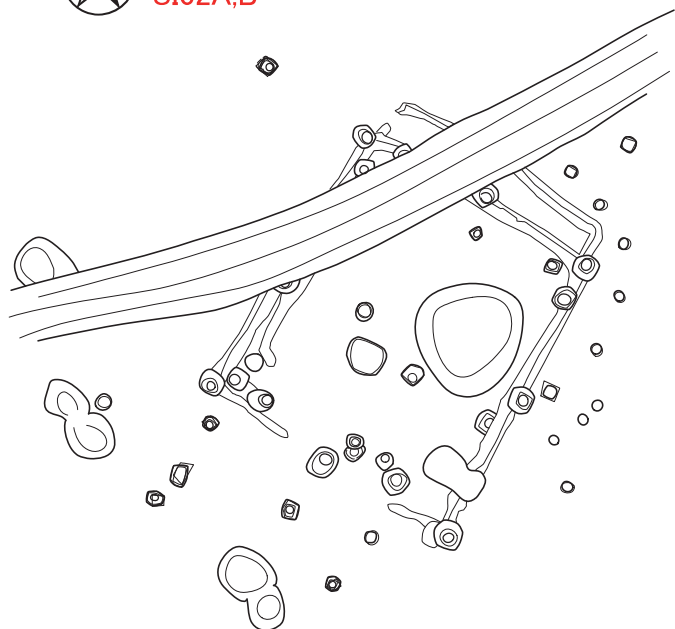
第3図 下福田尻遺跡調査区全体図



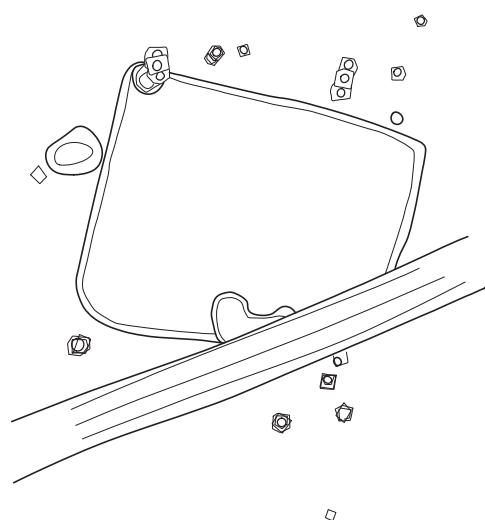
SI03A,B



SI02A,B



SI01



0 S=1/100 5m

第4図 下福田尻遺跡 竪穴建物跡



SI01 竪穴建物跡 遺物出土状況



SI02 竪穴建物跡 遺構確認状況



SI03 竪穴建物跡 遺構確認状況



SI02 竪穴建物跡 遺物出土状況



SI02 竪穴建物跡 出土遺物



SI03 竪穴建物跡 出土遺物